令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　入試・国試1　医学部入試検討委員会

入試センター長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　中川　淳

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					**教育研究推進委員会による点検・評価**		
		目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	私立医科大学偏差値トップ5を目指す	①③	大手予備校の偏差値評価で67.5から70.0へとアップし、西日本私立医科大学トップとなった。	S	11月に更新された大手予備校の偏差値評価でも70.0を維持しており、このまま偏差値を維持していく。	当初計画に基づく進捗を確認した。	S	目標を達成したことは大いに評価できる。
	2	志願者数4,700名以上の獲得	②④	昨年度を超える過去最高のオープンキャンパスの参加者を獲得した。 また、新規説明会（東京・京都・大阪・香川等）への参加に伴う受験者との接触機会を増大させている（昨年8月末で、24件の説明会が今年は8月末で28件に増加）。	C	昨年度同時期の志願者と比較して771名減少し、4,118名となっている。後期試験で582名の出願があれば、4,700名の確保は可能であるが、近年の後期出願状況を鑑みれば難しい状況である。例年と違うスケジュール、偏差値の上昇など様々な要因で受験控えがあったと推察されるが、現状の偏差値を維持したまま志願者数を増加させるには、更なる対策が必要となってくると考えられる。	最終報告を待つ。	C	偏差値上昇に伴い想定される結果となった。更なる取り組みに期待する。
	3	入学者選抜要項に則った2月入試に向けたスケジュール作成、入試指針作成	③④⑤	合同入学試験検討委員会で2月への入試変更の承認を得た。現在は、2月入試に向けて試験会場を調査中である。	B	医学部教授会での承認を得て、試験会場候補を調査中である。主会場となる大阪会場は下見を終え、最終調整に入った。大阪会場確保後、地方会場の選定に入る。	最終報告を待つ。	B	文科省の方針に伴い入試時期の変更は致し方ない。確実な実施に向け、種々の検討が求められる。
	4	関東・東海地方の受験者獲得	③	関東で新規説明会2件への参加や東海での説明会への積極的参加をすることで受験者との接触機会増大を図っている最中である。	C	関東の受験者数は昨年同時期465名に対し、今年度317名。東海（岐阜・愛知・静岡）の受験者数は、昨年度377名に対し、310名といずれも奮わなかった。なお、前年度と今年度の全体減少比率約84.3％を勘案した場合の志願者の目安は関東が392名、東海は318名となるが、減少割合を勘案しても志願者の数は少ない。接触機会の増加を図っても、現状の結果から考えると直近の志願者の増加には結びつかず、更なる対策が必要な結果となった。	最終報告を待つ。	C	受験者総数の減少もあり、致し方ない結果となった。更なる取り組みに期待する。
	5								
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　入試・国試2　看護学部入試検討委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　看護学部入試副センター長　三木　明子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	延べ志願者数1,350名の獲得とアドミッションポリシーに適合する新入生を確保する。	①②③	大学入学選抜実施要領及び入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー：AP）に基づき、中立かつ公平・公正に入学者選抜を実施するための準備を進めている。オープンキャンパス（OC）ではAPを周知し、志願者数獲得のため、令和7年度入試から一般選抜2教科型にも特待生制度を導入する。全国的に私立大学の看護の志願者数が減っている中、本年度の志願者数に直結する高3生・既卒者のOCの参加者数は、前年比95.7％（累計値553名／前年累計値578名）であった。近畿圏以外の来場者もあり、今後の志願者動向に注視していく。	B	学校推薦型選抜試験の志願者数は専願制・指定校制147名、併願制94名、一般2教科型334名、一般3教科型410名、共通2教科型106名、共通3教科型137名、共通5教科型78名、合計1,306名（前年1,469名）であった。延べ志願者を前年度と比較すると163名減となり、延べ志願者数1,350名の獲得はできなかった。入試結果を通してAPに適合する新入生を確保できたと考えるが、志願者数は目標値を下回った。	最終報告を待つ。	B	志願者数は目標を若干下回ったものの、APを意識した学生確保が進められている。
	2	関西圏の私立大学看護学部でトップの偏差値を目指す。	②③	入試コンサルティング会社の資料によると、全国に比べて近畿圏の私立大学の難易度は維持されており、看護学部は近畿圏のトップグループに位置し、偏差値52.5を維持している。また、全統模試の本学の合格者偏差値は昨年に引き続き2年連続で1位である。5月に実施された第1回全統共通テスト模試の志願動向では、本学を志望する者の中での成績上位人数が前年比125.3％となっており、成績上位者の志願増が見込まれる。	A	10月に実施された第3回全統共通テスト模試の志願動向でも、本学を志望する者の中での成績上位人数が前年比128.9％となっており、引き続き成績上位者の志願増が見込まれる結果となった。入試コンサルティング会社の資料によると偏差値は今回も52.5で引き続き高い値を維持しトップ偏差値55.0まではもう一歩である。	最終報告を待つ。	A	高い偏差値を維持しており、優秀な学生の確保が期待できる。
	3	少子化の加速、看護系志望の学生の減少、関西圏を含めた看護系大学の新設が続くなかで受験者の質・量をともに確保する。	①②③	受験者の「質」の確保については、本学に継続して入学実績があり、かつ偏差値60以上の62の優良校に対して、看護学部教員が高校訪問し、進路指導教員と対面することで優秀な学生の志願を募る。また、「量」の確保について、オープンキャンパスの参加者数は累計で1,052組1,924名（前年比104.1％増）となっている。オープンキャンパスに参加した高校3年生・既卒者の志願状況は今後追跡し、分析予定である。	B	学校推薦型選抜試験（専願制・併願制・指定校制）における偏差値65以上の高偏差値帯高等学校からの志願者数は、92名/241名（前年56名/283名）であり、志願者割合は、38.2％（前年19.8％）となった。また、オープンキャンパスに参加した学生の学校推薦型選抜試験出願率は専願制66.0％（前年86.7％）、併願制42.6％（前年46.6％）であった。受験者の質を確保できたが、量の確保には至らなかった。 令和6年11/27（水）実施の入試検討委員会において、指定校を2校から10校へと拡充し、一般選抜試験は1日から2日日程とすることが決定した。受験生の質・量をともに確保することを目指す。	追跡結果も含め、最終報告を待つ。	B	優秀な学生が出願していることが窺える。今後は指定校の増加と一般選抜の日程変更の効果を見極める必要がある。
	4	志願者の経済的負担軽減及び優秀な学生の確保を目的とした特待生制度の金額増額を検討する	③	志願者の経済的負担軽減及び優秀な学生の確保については、特待生制度改革の他に奨学金制度改革や入試区分の追加などを検討する予定となっている。	D	特待生制度に関しては、活発な議論はなされなかった。今後は奨学金制度等も含めて関西医科大学系列病院に優秀な学生が就職することを目的とした場合、どのような制度を拡充することが有用かを検討していきたい。	最終報告を待つ。	D	学生のニーズや、優秀な学生の確保、本学系列病院への就職などの目的に合致した経済支援が検討されることを期待する。
	5	一般選抜試験3教科型で実施する活動実績報告による加点制度において、適切な入学者選抜実施体制を確立する。	④	活動実績報告による加点制度については、該当する評価項目が複数ある場合、全て選択可とし、評価基準に基づいて最も高い得点を採用することが入試検討委員会において決定した。	A	教授の中から評価者3名を選定し、活動実績報告審査を実施する予定である。評価基準や採点者の選定など適切な入学選抜実施体制を確立できた。	当初計画に基づく進捗を確認した。	A	適切な入学選抜実施体制が確立されている。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　入試・国試3　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部入試検討委員会

ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部入試副センター長

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　中野　治郎

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 ４学年全員の卒業と国家試験合格率100％を目指すことができる高レベルの入学者を獲得する。	①		B	入試成績と入学後のGPAの相関関係を分析し、卒業・国家資格合格ができる学生の獲得を想定して合否判定を行った。	国試の結果が出てからとなるが、国試成績と入試成績との相関や分析は必須である。最終報告を待つ。	A	国家試験成績は100％を達成したが、4学年全員が試験を受験しておらず、その点は課題である。
	2 実志願者数　理学療法学科240名、作業療法学科140名を目指す。	①		D	実志願者数、理学療法学科164名、作業療法学科45名 当初の目標を達成することができなかった。 志願者を獲得するため、令和8年度入試から、指定校推薦、地方入試の実施、特待生制度の見直しを検討している。	最終報告を待つ。	D	実志願者確保に向け、継続的な施策検討が必要である。
	3 広報活動の見直しと新規企画を検討する。	②③	実志願者数を増やすため、広報委員会と連携し、以下の新規企画を実施している。 ・早期（4月）からオープンキャンパスを実施 ・JR快速電車オープンキャンパス広告掲載 ・9・12月病院見学会を実施予定 ・業者による地方の高校訪問を実施。 ・これまで行ってきた広報活動（HPの更新、高校訪問、広告掲載など）は継続して行っている。	S	実志願者数を増やすため、新規企画を計画し実行した。 ・病院見学会では、総合型選抜試験・推薦型選抜試験に合格した学生、一般選抜試験を控えた学生も参加し意義のあるイベントとなった。来年度も継続開催を予定している。 ・業者による高校訪問では、主に中四国・東海地方に訪問を依頼した。報告の結果、関西医科大学リハビリテーション学部の知名度が低いこと、関西への大学進学率が低い地方が分かったため、更に分析を行い来年度の訪問校を選別する。 ・HP、SNSの更新について意見を出し合い、志願者が求めているものは何か他大学のHP等と比較し検討を行った。来年度も継続していく。	当初計画に基づく進捗を確認した。	S	新規企画等実志願者確保のための継続的な取組を続けられたい。
	4 理学療法学科志願者の更なる増加を目指す。	①②③		C	志願者は微増したが更なる増加には至らなかった。	最終報告を待つ。	C	来年度の取組に期待する。
	5 作業療法学科志願者の定員充足を維持する。	①②③		C	作業療法学科だけでは定員充足できず、理学療法学科の第二志望学科制度の合格者で充足している状況である。	最終報告を待つ。	C	原因分析を含む来年度の取組に期待する。
期中追加 目標・計画								

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　入試・国試4　医学部新国試戦略会議

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　医学部新国試戦略会議委員長　谷崎　英昭

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		**該当事項（※1）**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	医師国家試験合格率で私立医科大学上位を目指す	①④	新国試戦略会議において対策の検討、予備校との協議を重ね、学生への支援を強化している。		予備校と連携し、学生の要望に応えながら、様々な取組みを実施した。最終的な評価は、国試の結果を待つが、早急に次年度に繋がる分析を行う。	結果の分析は必須。最終報告を待つ。	D	新卒90.3%となり、全国平均より約5%低値となった。抜本的な取り組みが必要である。
	2	「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を目指した教育体制の構築に取り組む	②③	各種模擬試験の当日受験を必須化し学習到達を分析するとともに、国家試験対策講義を計画的に開講し、進級卒業および合格率向上に努めている。また、予備校担当者および国試対策に特化したメンターによる学生面談の充実・強化を図っている。	B	教育センターと連携し、4年生からの成績不振者プログラム「Sクラス」、そして国試対策プログラムを通して、「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を目指した教育体制を構築している。今後、構築したカリキュラムが「全員進級・全員卒業・全員国試合格」を達成できているかの検証を行っていく。メンター制度については、現在教育センターがメンターに対し、意見聴取を行っており、その意見も踏まえ、次年度に向け、予備校とも連動したメンター制度を検討する。	特にメンター制度に関する評価について、最終報告を待つ。	C	新メンター制度の初年度であったが、全学年で機能している状況には至らなかった。次年度に向け、更なる取り組みが求められる。
	3								
	4								
	5								
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　入試・国試5　看護学部国家試験対策委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　看護学部国家試験対策委員長　酒井　ひろ子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	看護師・保健師・助産師国家試験合格率100％を目指す。	①②③	目標を設定した国試対策の強化、慈仁館の学習環境の整備、基礎医学系科目の専任教員との連携など目標達成に向けて取り組んでいる。	A	看護師（7回）・保健師（2回）対策講座の出席率は就活や受験者除き約9割に達した。成績不振学生を対象としたフォロー講座（3回）の出席率はほぼ100％であった。専任教員が、必修問題の要となる「人体のしくみ」講座（10回）を成績不振学生を対象に実施した。助産師国家試験受験者9名へ「新生児の国師対策」（4回）を実施した。 慈仁館を国家試験対策室として整備し、1月以降の利用者数は1日あたり8～10名と増加傾向にある。	自習室利用状況を把握し、適切に運用できているかも含め、最終報告を待つ。	A	資格別に対策講座を行いつつ、成績不振学生へのフォローも適切に行っている。また、自習室を利用する学生も増えつつある。これらの施策が国家試験の合格率向上に寄与することを期待する。
	2	国家試験結果の原因分析を基に体系的な国家試験対策実施体制を確立する。	①④	傾向分析セミナーへ参加し近年の国試結果を基にした対策の強化を実施している。	A	教員向けセミナーを委員長と副委員長が受講し、近年の国試の傾向と対策を把握した。東京アカデミーと連携し、看護師と保健師の模試結果から学生の弱点単元を共有し対策講座の内容を検討した。対策講座への学生の満足度は概ね高いが、成績優秀者には物足りなさを感じた者があった。	最終報告を待つ。	A	国試の傾向と対策を組織的に分析し、これを踏まえた対策講座を実施できている。
	3	教務委員会・学生委員会と連携した過年度生、成績不振学生に対する支援体制を確立する。	①②③	ゼミ担当教員が国試対策支援教員となる体制を構築し組織的な支援体制を整えた。過年度生に対する支援を教務委員、学生委員と連携し行っている。	S	学生個別の全国模試結果や対策講座の出席率を委員が把握し、成績不振学生、出席率の低い学生へ支援を行った。ゼミ担当教員が直接的なサポートを実施する組織的な支援体制を整え、学習計画、体調管理、生活習慣改善に対する助言を継続して実施している。過年度生に対してゼミ担当教員より継続的な支援を行っている。	最終報告を待つ。	S	関係者が連携をとりつつ看護学部全体で支援が行われている。成績不振学生の減少につながることを期待する。
	4	全国家試験模試を導入し、学習到達度を可視化した国家試験対策の推進。	②③④	全国模試の結果を可視化し、成績分析を基に国試対策を推進している。	S	全国模試の結果を前年度卒業生との比較データとして可視化し、教員会で共有した。成績不振学生の成績の推移についても可視化し、支援の必要な学生が漏れないようにフォロー学生の選定を2回実施した。成績分析を基に国家試験対策の追加（全体、フォロー各1回）や内容の検討を行った。	最終報告を待つ。	S	全国模試の結果を教員で共有しつつ、成績不振学生に手厚いフォローを行っている。
期中追加 目標・計画									

令和６年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　　入試・国試6　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部キャリア支援委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学部キャリア支援委員長　野村　卓生

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						**教育研究推進委員会による点検・評価**		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		**該当事項(※1)**	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告	
				途中経過・状況	評価(※2)	部門講評		評価(5段階)	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	理学療法士・作業療法士国家試験合格率100%を目指す。	①	学科会議での継続協議を実施		3月21日が発表日のため、現時点で記載不可	開設後、初めての国家試験であり、最終報告を待つ。	S	理学療法士・作業療法士とも100%を達成した。
	2	国家試験合格に向けた教員の教育能力の向上を目指す。	②	外部講師を招聘して国家試験対策に関するFD研修会を開催	A	各学科で継続的に情報共有を実施	最終報告を待つ。	A	FD研修会の成果について、次年度以降の検証を待つ。
	3	国家試験対策に関する授業を充実させる。	③	共通問題、専門問題に関する国家試験対策集中授業を導入	A	模試の成績不良者に対して、個別の学習支援を実施	最終報告を待つ。	A	成績不良者の国家試験の、結果の報告を待つ。
	4	国家試験模試を導入、学習到達度を可視化し、国家試験合格に向けた学習を促進させる。	④	2年次から国試模試を導入。フィードバック体制を構築	A	4年生を対象に平日のリハ学部棟開館時間の延長と年末年始の開館。学習室の確保	国試の結果発表後、平素の成績や模試成績との相関や分析は必須である。最終報告を待つ。	A	継続した支援とともに、結果の検証を求められる。
	5								
期中追加 目標・計画									